

# 西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.186

悪質な訪問買い取り・押し買いに注意を

「不用品はないか」「いらぬ服や靴を買い取る」と電話があり、自宅を訪問する業者がいます。しかし、実際の目的は宝石や貴金属の買い取りで、強引に買い取られたというトラブルが発生しています。

「買い取りの約束をしたが不安になった」「訪問を断りたいが連絡先が分からない」といった相談もあります。業者名や連絡先などはしっかり聞き、メモを取りましょう。

### ◆トラブルを回避するためのアドバイス

#### ◇断る勇気を持つ

必要がなければ、電話が掛かってきた時点で断りましょう。

#### ◇訪問時は油断しない

貴金属のことを聞かれても話さない、見せない、電話で約束した物品以外は売らないようにしましょう。また、できれば家族や周囲の人に同席してもらいましょう。

#### ◇制度を利用する

業者に紛失や売却されることを避けるため、クーリング・オフ期間(契約後8日間)は契約物品を手元に置いておくことができます。

## あぐりコラム 24

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)



黒田庄和牛などを使ったドーナツ状の「ぎょーナッツ」

### 地域食材で「おうちごはん」

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活に大きな影響を与えました。行動が制限される中、自宅で食事をするのが増え、外出しなくても楽しめる食事や家庭のオリジナルメニュー、いわゆる「おうちごはん」が数多く生まれたのではないのでしょうか。

そこで、「おうちごはん」をテーマに地域食材を使ったにしわきレシピコンテストを開催。2月には158点の応募の中から、書類審査で選ばれた上位5作品の最終審査を行いました。コロナ禍だからこそ生まれたレシピや、高校生による新しい着眼点で作られたレシピが集まり、最優秀賞には家族で楽しく作れる簡単ギョーザ「ぎょーナッツ」が、審査員特別賞には金ゴマをふんだんに使い、編み込んだパイ生地で播州織をイメージした「黒田庄和牛のカレー風ミートパイ」が選ばれました。

上位作品の調理方法は市ホームページで紹介するほか、今後、市内でのイベントなどで提供する予定です。

市ホームページはこちら



▲事業者には、調理や食器洗浄といった業務を委託します

# 好きです!! にしわきわたしのふるさと

## 心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

### 将来にわたって給食を提供するために 調理業務は「民間委託」へ移行します

西脇市の学校給食は市立学校給食センターで一日約3500食を調理し、幼稚園児と小中学生に提供しています。将来にわたって安全・安心な給食を提供する環境を整えるため、令和3年度から「調理業務」を民間事業者へ委託します。

#### 業務委託に至った背景

少子化が進む中、「調理業務のあり方」は長年の課題でした。平成30年度には学識経験者や保護者らで構成する検討委員会を設置。多くの意見を聞くために保護者アンケートも行い、その結果も含めた答申書が提出されました。市では答申内容を重視しながら慎重に検討し、調理業務を民間委託することを決定。令和元年度には保護者説明会を開催するなど、準備を進めてきました。

#### 調理業務委託事業者の選定

事業者選定では、事業提案方式を採用。価格だけでなく、給食に対する考え方や衛生管理、アレルギーへの対応などのノウハウや実績も評価し、選定しました。

#### ◆調理業務委託事業者

株式会社東洋食品(東京都)

◆委託期間 令和3～5年度

#### ◆問合せ

学校給食センター(☎22-6041)

## 心のスケッチ

144

### 人権教育課コラム

#### ウィズコロナ時代の「家族のカタチ」

新型コロナウイルスが初めて確認されてから2度目の春を迎えました。マスクの着用やこまめな消毒、外出自粛、在宅勤務など、私たちの生活は大きく変化しました。

新しい生活様式が求められる中、外出自粛によって家事や育児の負担が増え、多くの人がストレスを感じながら生活しています。一方、家族と過ごす時間が長くなり、「コミュニケーションの時間が増えた」「父親が前よりも家事・育児をするようになった」といった意見もあり、新型コロナウイルスが及ぼす影響はマイナス面ばかりに目が行きがちですが、プラスになったことも少なからずあるようです。

これまでわが家では、妻が食事の支度をして、私が子どものお風呂に入れる、子どもも健康や予防接種は妻が連れて行くなど、知らず知らずのうちに家事が分業されていきました。しかし、家にいる時間が長くなったこととお互いの役割を見直し、任せきりになつていたことを少しずつ分担することにしました。

いざ家事や育児に取り組んでみると、その大変さや慌ただしさを実感します。その傍ら、これまで見過ごしていた子どもの成長に気付くことができました。自分の思うようにはできないこともたくさんありますが、妻には「まだまだ発展途上だから」と大目に見てもらい、前向きに取り組むことができているようです。

内閣府が行った「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、約34%の家庭が夫婦間の役割分担を工夫するようになり、そのうち約66%が「今後も工夫を継続する」と回答したようです。

欧米諸国と比べると、日本は性別役割分担意識(夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え)が強く、母親の家事・育児の負担が大きいといわれています。きちんと役割分担するというよりは、自分でできることを少しずつ増やしながらかつ、新しい「家族のカタチ」を創っていかれたらと思っています。

## 市長からの手紙

西脇を元気に!!

87



西脇市長 片山象三

### 市民会館と歩んだ西脇の文化

西脇市のヒーロー・トータス松本さんに「ホットロックコンサート」に出演いただきました。昭和56年から始まった音楽イベントで、当時高校生だったトータス松本さんと一緒に出演していたメンバーも登場。現役高校生も出演しましたが、演奏レベルの高さに驚きました。最後にギター一本でトータス松本さんが歌い始めると、その迫力と故郷を思う気持ちの温かさに胸が熱くなりました。「初めて人前で歌った思い出の市民会館



半世紀にわたって西脇の文化を育んできた市民会館

が閉館するのは寂しいけど、新しい市民交流施設でも演ろうね」と。楽しみです!

19日は、劇団四季さんと播州織で舞台衣装を製作することなどの連携協定を結びました。日本一の劇団、劇団四季の舞台衣装に播州織を使っていただけのこと、大変うれしいことです。今回のことは、5年前の市制10周年時に公演をいただいたことがきっかけですが、かつて、何度か公演いただいたことでのつながりもありました。

市民会館は間もなく閉館しますが、その歴史の中でたくさんの方が集い、音楽や演劇に触れることのできる、まさに「文化の拠点」として親しまれてきたのだと実感しています。これまでのつながりを大切にしながら、市民交流施設でも新たな出会いとともに新しい文化が育まれることを期待いたします。

